

# いつもの生活へ 円滑な復帰を支援

医療 最前線  
川崎医科大学附属病院

作業療法士  
リハビリテーションセンター  
療法士長  
大塚 啓司 Hiroshi Ootsuka (左)  
安井 美佳 Mika Yasui (右)

患者さんに何が必要かを予測する力。  
毎日の積み重ねが実る喜び。

優しい笑顔が印象的な作業療法士の安井  
美佳さん。実務内容をこう説明してくれた。

「作業療法士は医師の指示を受け、患者さんが『いつもの生活』に戻れるようリハビリテーションを行なっています。食事、着替え、入浴、トイレといった生活を支障なく送るための動作。筆記をするキーボードを打つといった、その方の仕事や学業復帰に必要な動作。また、庭の花の手入れをしたい、手料理を家族に食べてもらいたい、といった生活を豊かにすること。そういう生活行為ができるよう

に機能回復の訓練を担当します」。



Occupational therapist

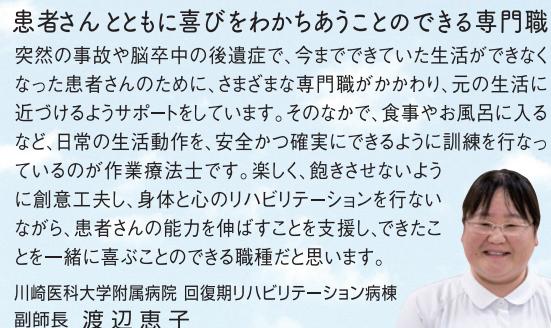
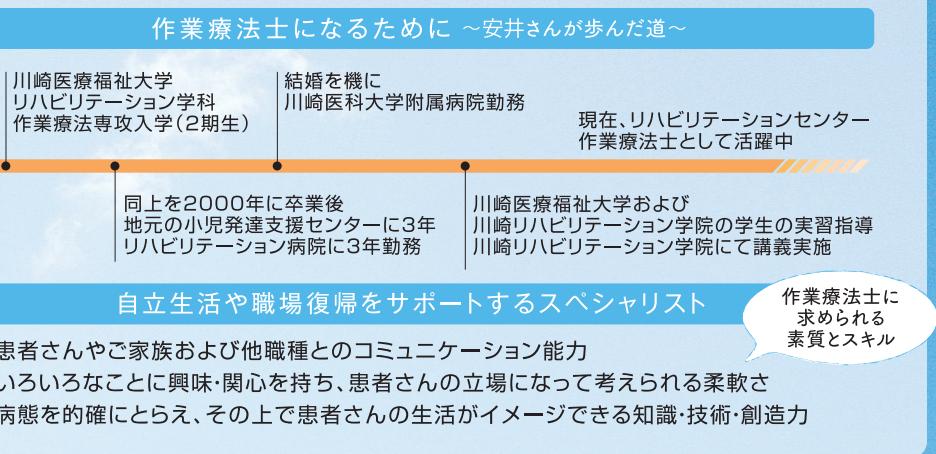
## 作業療法士とは

作業療法士(Occupational Therapist / OT)とは、身体障害、精神障害、小児の発達障害、高齢に伴う障害など、さまざまな障がいに対して復帰の支援を行なうリハビリテーションの専門職(国家資格)。食事や入浴など日常生活の動作や手工芸、園芸及びレクリエーションなど、さまざまな作業活動を通して、身体と心のリハビリテーションを行なう。病院や介護施設などのさまざまリハビリテーションの現場で、作業療法士が活躍している。

### 患者とともに喜びをわかちあうことのできる専門職

突然の事故や脳卒中の後遺症で、今までできていた生活ができなくなった患者さんのために、さまざまな専門職がかかり、元の生活に近づけるようサポートをしています。そのなかで、食事やお風呂に入など、日常の生活動作を、安全かつ確実にできるように訓練を行なっているのが作業療法士です。楽しく、飽きさせないように創意工夫し、身体と心のリハビリテーションを行なうながら、患者さんの能力を伸ばすことを支援し、できたことを一緒に喜ぶことのできる職種だと思います。

川崎医科大学附属病院 回復期リハビリテーション病棟  
副師長 渡辺 恵子



笑顔がまぶしい作業療法士たち。「障がいのある患者さんのために役立つ医療を行なう」をモットーに多くの患者さんのQOL(生活の質)向上を目指して日々の業務に取り組んでいる。



リハビリテーションは日常生活のさまざまな動作や行動を意識した特殊な機器や器具を使って行なわれている。作業療法士は患者に日々、寄り添いながら笑顔でトレーニングに取り組んでいる。

障がいを持つ人の自動車運転復帰支援のひとつとして導入したドライブシミュレーター。ハンドルやブレーキの操作データから、人や車などの障害物を避けることができるかを作業療法士が評価している。

### 急性期、小児から高齢者の患者さんまで 大学病院として幅広く対応。

「大学病院という特性上、脳卒中や事故による熱傷や切断、多発外傷といった急性期の患者さんが多いのが当院の特徴です。それゆえに当科の作業療法士は、手術前から手術後まで一貫して、患者さんやご家族にしっかりと寄り添つて職務にあたっています」と大塚さん。

チーム医療について尋ねると、「医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、そしてリハビリテーションに携わる理学療法士、言語聴覚士・作業療法士、誰が欠けてもチーム医療は成り立ちません。リハビリテーションセンターに勤務する作業療法士は多職種と連携しながら、患者さんと日々向き合っています」。

急性期、そして小児から高齢者まで、さまざまな患者さんを受け入れている当院。住み慣れた地域や自宅での生活、仕事への復帰など、「いつもの生活。いつもの自分」を取り戻すために日々がんばる患者さんのそばに、作業療法士の献身的な姿がある。

お問い合わせ  
川崎医科大学附属病院(倉敷市松島577)  
086-462-1111  
<http://www.kawasaki-med.ac.jp/hospital/>